

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第 39 号 (2010 05 31)
事務局川西地区自主防災会

香川マルチメディアビジネスフォーラム自主活動としての 地域住民・企業人・大学人が協働した防災まちづくり活動

香川マルチメディアビジネスフォーラム自主活動
世話人 武智 孝志(株式会社NTTドコモ四国)

1. まえがき

香川県は平成 16 年まで約 30 年間大きな自然災害を受けていなかった。また、大きな地震災害は昭和 21 年の昭和南海地震以来 60 年間経験していない。このため香川県民の防災意識は官民とも低い状況であったところ、平成 16 年の度重なる台風が香川県下を襲い土砂災害や高潮、河川氾濫によって死者 19 名という甚大な被害が発生した。香川県丸亀市川西地区の連合自治会の岩崎正朔会長は、自分たちの命を地域で守るため、地域づくり推進協議会に防災部会を立ち上げ本格的な自主防災活動に日頃から取り組んできた。また、かがわ自主ぼう連絡協議会を立ち上げ、自ら代表世話人として防災伝道師として東奔西走する毎日であり、結果、平成 21 年度第 14 回防災まちづくり大賞を受賞するに至り、香川県初の快挙を成し遂げた。しかし、地元住民だけの力では限界があり、岩崎会長自らも属している香川マルチメディアビジネスフォーラム分科会(現：自主活動)の企業人達に協力を求めた。そこで、私たちは地域の住民の知恵と企業人と大学の持つ防災に関するノウハウや技術とを結集した防災まちづくり活動に取り組んだ。

2. 対象地域

平成 17 年からスタートした、この活動は、概ね表-1 のとおりである。

(表-1) 対象地域

年次	対象地域	支援内容
平成 17 年度	丸亀市川西地区	防災の手引き作成・防災マップの作成ほか
平成 18 年度	高松市太田南地区(同林地区)	防災マップの作成ほか
平成 19 年度	高松市川岡地区(丸亀市川西地区)	同(要援護者マップ)
平成 20 年度	高松市二番丁地区(21 年度へ継続)	防災マップの作成ほか
平成 21 年度	高松市鬼無地区(同太田南地区)	同

3. 香川マルチメディアビジネスフォーラム分科会の活動(現：自主活動)

香川マルチメディアビジネスフォーラムは香川県商工労働部産業政策課に事務局を置く香川県内 84 社の企業が I T の勉強をする会である。(現在は、財団法人かがわ産業支援財団)分科会(現：自主活動)は、その中にある異業種交流の会で、事務局から与えられたテーマに対してグループ単位で研究を行っている。平成 21 年度は、「防災をキーワードとした『まちづくり』を I C T で支援しよう」をテーマにミーティングを重ね、自分たちの特色を活かすどのような地元貢献ができるか、実際に地元は何を求めているのかを話し合った(図-2)。その結果、丸亀市川西地区の継続支援、太田南地区の地区別防災マップの作成支援、二番丁地区防災マップの作成支援、



図-1 自主活動のミーティング

鬼無地区防災マップの作成支援を行うことによって防災活動を支援することになった。

4. 「防災 MAP」の作成

県内の洪水等ハザードマップは国土交通省四国地方整備局が既に整備している。そのため、この洪水ハザードマップを参考により小規模な浸水情報も加味した「防災マップ」を作成した。

また、住民を主体とした「まちあるき」を実施して、自分の住む街を知ってもらうことも行った。(図-3)

なお、これらの活動には、将来を担う小学生等にも参加してもらい、将来に禍根を残さぬこととした。

作成途中には、香川大学によるワークショップを開催して、情報の共有を行うとともに、図上訓練を行った。(図-4.5)

特に、二番丁地区では、香川大学の保有するGISシステムを駆使した防災マップとなった他、太田南地区では、従来作成していた防災マップが広域過ぎとの声を受け、自分の住む家の近所を中心とした地区別(4分割)防災マップとした。(図-6)



図-2 都市計画図(2500分の1)
を用いた旧河道の予測



図-3 川西(城辰小学校)での
まちあるき説明会



図-4 二番丁地区でのワークショップ



図-5 鬼無地区でのワークショップ

平成21年度 保存版

太田南地区防災マップA

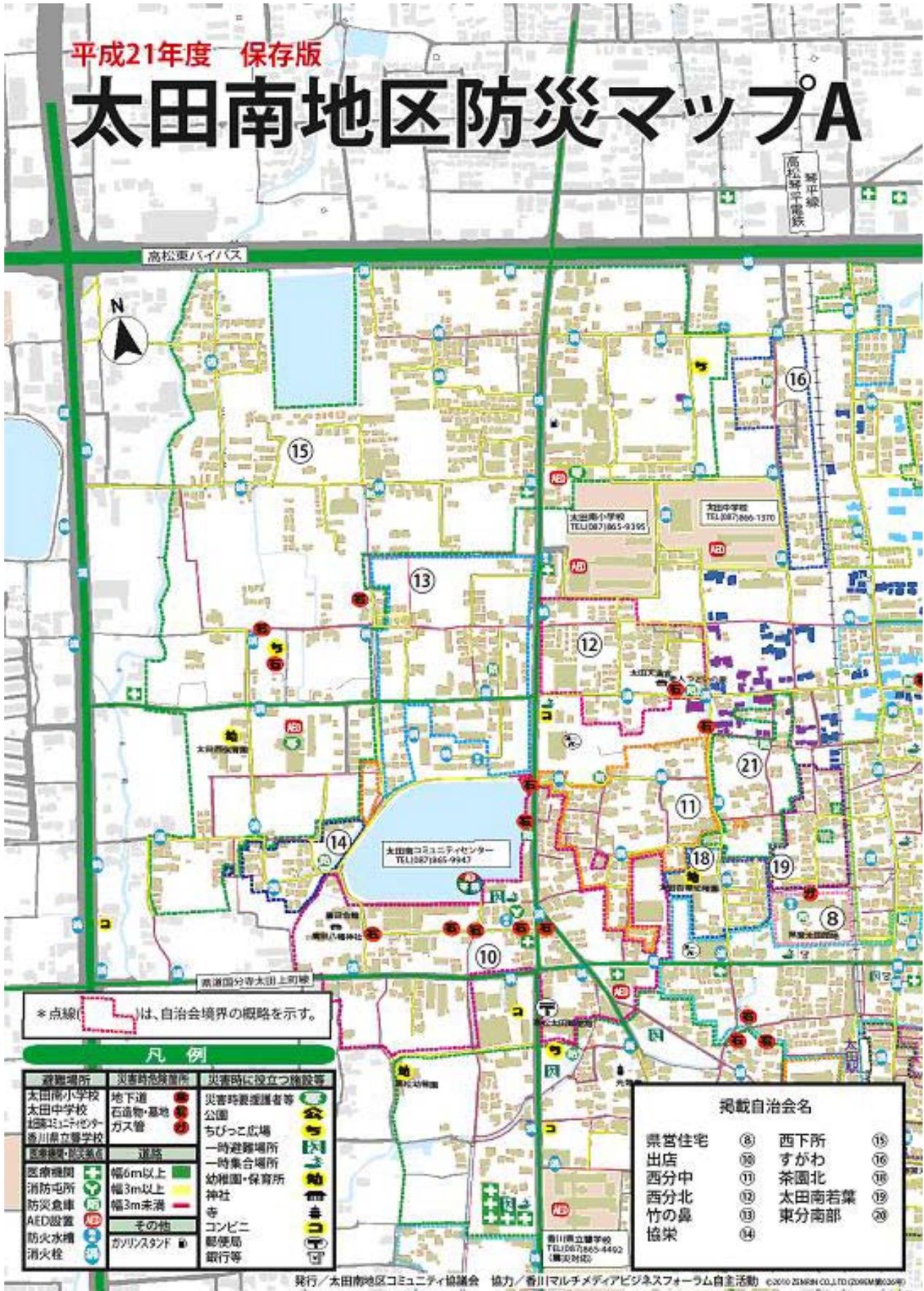


図-6 太田南地区防災マップA

5. 活動を通じて学んだこと

5年間に渡る活動の結果、地域の住民の知恵と企業人と大学の持つ防災に関するノウハウや技術とを結集することができた。他の地域においても以下の条件は参考になるであろう。

- ・地域をまとめるリーダーがいること。
- ・リーダーをサポートするチームがあること。
- ・ノウハウ・技術を持った地域内の企業と、地元の大学の協力を得ること。
- ・女性パワーの協力があること。
- ・地元のことを良く知っている地元住民の声を聞くこと。
- ・県や市と連携して、適切な支援を得ること。
- ・防災だけでは長続きしないので親睦行事の中に防災訓練の要素を加えること。
- ・活動資金を確保するため、各種の助成制度を活用すること。

また、

- ・隣近所の固い結束力が防災に如何に重要かを実感した。
- ・自助、共助を高める地域防災感覚の醸成の必要性を感じた。

6. まとめ

今回の活動は日頃、企業人として蓄積したことを実際に現場で活かすだけでなく、企業の中にはふれ合うことのできない大学や地元の人たちとの交流ができ、多くの刺激を受け自分の見地を高めることができた。また、「第14回防災まちづくり大賞」の「総務大臣賞」を受賞したことによって、この活動が社会的にも認められたことは、大きな喜びである。今後は、5年間お付き合いした地域の方々との交際を続け、これらの地区だけではなく、多くの地域が自主防災に取り組み、地域のつながりで災害への備え、或いは、まちづくりが進むことを期待し、支援する。企業としても地域貢献活動或いはCSRとして、このような活動に積極的取り組んでいくべきである。

おわりに：

各地域の自主防災会の皆様、香川大学長谷川教授ほか研究室の皆様、ご協力いただいた全ての方に、ここに記して感謝申し上げます。なお、この活動は「朔ちゃんの防災日記」の中でも紹介していただいています。
(<http://kawanishiiwasaki-ashita-sanuki.jp>)。

平成22年5月

香川マルチメディアビジネスフォーラム自主活動

F M高松コミュニティ放送株式会社	樽谷 新司	香川大学大学院	加藤 真吾
株式会社N T T ドコモ	武智 孝志	同	濱田 康司
株式会社ケーブルメディア四国	岸 正洋	同	佐々木 良
中讃ケーブルビジョン株式会社	佐久間知恵	同	佐藤 知紀
株式会社ビットコミュニケーションズ	内海 信一	香川大学工学部	橘田 勝也
株式会社ビ・ソフト	藤井啓三郎	同	水田 朗
丸亀被服株式会社	西川 平二	同	山室 美穂
株式会社アイコー印刷(オブ参加)	秋元 昌幸		

事務局だより

平成22年5月

かがわ自主ぼうの事務局を担当している「川西地区自主防災会」よりお伝えします。

城辰小学校との防災研修

地元城辰小学校との防災研修を6月2日（水）午前9時30分～午後1時、小学校グラウンド及び体育館にて開催いたします。6年生児童106名と地区内の企業、更には香川大学工学部の学生さんも参加し、私達の自主防災会を含め約160名により、訓練を行います。

<当日のカリキュラム>

第一部	第二部	第三部
1) バケツリレーによる消火訓練	避難所設営訓練	第一部で作った炊き出し食の試食を行う
2) 土のう作り・積み方訓練	・優先スペースの設定	
3) ロープによる救助訓練	・ボランティア控室の設定	
4) AEDによる救命訓練	・受付、総務の設営	
5) 避難経路探索訓練	・救護室の設営	
6) 担架組み立て訓練	・給電関係の設営	
7) 炊き出し訓練	・備蓄関係の設営	

市民トリアージの研修を初めて行います

大災害発生時には、限られた医療資源を有効に働かせるために、「負傷者」の“ふるい分け”が必要になります。四国地方で初めての試みになると思いますが、6月10日（木）午後2時～4時、城辰小学校6年生児童106名と共に、坂出回生病院のご指導ご支援をいただき、小学校体育館において「市民トリアージ研修」を行います。



編集後記

今月の防災・減災の輪は、香川マルチメディアビジネスフォーラム武智さんをお願いいたしました。太田南地区のすばらしい防災MAPが掲載されております。